基本方針ごとの検証指標の目標と実績及び施策事業実績の評価(令和6年度)

基本方針1 緑を守る(豊かな自然の保全・共生)

1 自然環境の基盤である森林や河川等の保全

項目	担当課	令和6年度実績			R5年度実績値	評価	今後の取組
		項目	計画値	実績値			
(1)水源かん養域の保全や交流・連携の推進	みどり公園課 水保全課	森林経営管理制度の運用(事前調査、意向調査、経営管理権設定)	17,866千円	17,866千円	9,065千円	令和6年度は計画に基づき河内町大多尾の人工林を対象とした意向調査を実施するとともに、前年度実施した意向調査(河内町野出、河内町東門寺地区)の結果、市による管理が必要と判断した森林に対して、集積計画書の作成等を実施した。	今後も計画に基づき意向調査、集積計画の作成、市による管理を実施予定。
		人工造林	15,000千円	13,099千円	8,883千円	予定通りに実施することができた。	令和6年に西原村と締結した森林整備協定に基づき、計画通り10年間で35ha整備する。
(2)環境に配慮した河川整備の推進・促進	河川課	広域河川の整備	70m	81m	16m	広域河川の整備については、緑や生態系に配慮しながら、自然環境に配慮した水辺空間の形成に努めた。	整備にあたっては、緑や生態系に配慮するなど、自然環境に配慮した水辺空間を形成していく必要がある。
		準用河川の整備	100m	40m	41m	準用河川の整備については、主な工事が橋梁等であったため、執行実績は計画を上回っているもの、施工実績は計画を下回っている。	
(3)健全な森づくりの推進	花とみどり協働課	森林・山村多面的機能発揮対策交付金の活用	計画値無	18団体	26団体	説明会等で広報を行っているが、申請団体は減少。ただし、次年度に向けての要望者は予算規模と比較して多い状況。	予算が削減されているが、希望者は増えており、それに見合う予算確保が課題。
		放置竹林有効利用推進事業(竹粉砕機貸し出しなどを行う事業)	計画値無	26団体	24団体	広報による周知が行き届いているのか、申請団体が増加傾向にある。サポーター隊も増えてきて、活動はスムーズに行えた。	今後も申請団体は増加の見込みであるが、サポーター隊作業員の高齢化が進み、世代交代が課題となる。

2 身近な自然環境の保全

項目	担当課	令和6年度実績			R5年度実績値	評価及び今後の取組	評価及び今後の取組
		項目	計画値	実績値			
(1)地域制緑地等による緑の保全	都市政策課 みどり政策課	風致地区内の緑の保全、啓発(HP等の広告媒体による啓発)	1件	1件	1件	風致地区内の緑の保全、啓発では、HP等の広告媒体による啓発を主として行っている。	引き続き緑の保全、啓発に努める。
		環境保護地区(市街地周辺に残された貴重な緑地や自然環境として定める地区)の適正管理	7,500千円	5,953千円	6,321千円	地権者の中には、管理が行き届いていないことを理由に申請を辞退する方や指定解除を要望する方がおり、指定の解除もあつたことから、交付金の額が減少している。	緑地保全制度の見直しに合わせて、環境保護地区の指定基準見直しも検討している。令和7年度には地権者向けのアンケートを実施するため、意見を踏まえ、緑地の保全や生態系の維持手法を検討する。
(2)保存樹木の適正管理	みどり公園課	保存樹木(先人が残した貴重な名木や老樹を保護し、次の世代に引き継ぐために指定している樹木)の助成	10件	9件	8件	予算の確保ができたことから、計画値より多くの支援を行うことができた。	今年度と同等程度の支援に取り組みたい。
		保存樹木の樹木診断の実施	1件	5件	3件		
(3)田園の保全	農業政策課	景観法に基づく届出制度の活用	計画値無	179件	221件	令和6年度においてもこれまで同様、田園景観・既存集落景観保全ゾーンを含めた市内全域において、景観計画に定める景観形成方針、景観形成基準に適合した計画となるよう指導を行った。	太陽光発電施設については、近年特に市街化調整区域で設置件数が増加しており、色や高さ等形態のほか、敷地の緑化や既存樹木等周辺との連続性についても積極的な景観誘導を行う。

3 地球環境や生物多様性に配慮した自然環境の保全

項目	担当課	令和6年度実績			R5年度実績値	評価及び今後の取組	評価及び今後の取組
		項目	計画値	実績値			
(1)熊本市生物多様性戦略の推進	環境政策課	市内の外来植物駆除	1件	1件	2件	特定外来生物オオキンケイギクの駆除について、市政だより、SNS等を活用し周知を行った。	オオキンケイギクの周知、啓発に努め、市民の協力の下、駆除を行う。市内の広範囲に生育しているため、効果的な駆除には市民との協働が必要である。
		絶滅危惧種保全の取組	計画値無	1件	1件	絶滅危惧種の生息・生育状況を把握するために、江津湖地域(下江津地区・広木地区)において秋季及び冬季に希少生物生息・生育状況調査を実施し、カヤネズミ、キタミソウ等の希少生物の生息・生育が確認された。	希少生物生息・生育状況調査の結果に基づく専門家からの意見を踏まえ、希少生物保全の取組を検討する。自然環境及び生物の生息・生育環境の変化を把握するためには、経年的な調査の実施が必要である。
(2)Eco-DRR(生態系を活用した防災・減災)の視点の推進	みどり公園課	森林間伐(立田山憩の森内保安林)	30本	80本	84本	令和6年度は立田山憩の森における危険樹木等の伐採(間伐)を実施。	引き続き今後も危険樹木等の伐採(間伐)を実施予定。

基本方針2 緑を育む(緑あふれる都市づくりに向けた緑の創出)

1 効果的な公共施設等の緑の創出

項目	担当課	令和6年度実績			R5年度実績値	評価及び今後の取組	評価及び今後の取組
		項目	計画値	実績値			
(1)道路の緑化	みどり公園課	公民連携の推進	20,800千円	20,800千円	17,850千円	街路樹の維持管理について、造園業者や樹木医等のノウハウを活かしつつ、適切な維持管理を目指した取組を行った。	令和7年度に完了。
		軌道敷緑化(緑のじゅうたん)新設	計画値無	0m	25m	今年度の実績はなし。	次年度の新設予定なし。
(2)学校の緑化	みどり公園課 花とみどり協働課 教育委員会指導課	学校樹維持管理(剪定、危険木対応、害虫駆除)業務	77,576千円	80,347千円	74,243千円	学校樹木の維持管理を目的とした業務において、適切に業務を推進することができた。	今後も適切に業務を推進する。
		学校環境緑化コンクールの相談助言部門の応募校数	40校	24校	25校	今年度は小学校10校、中学校14校の参加があり、16校が表彰をうけた。全日本学校緑化コンクールに推薦した、小学校1校中学校1校が入賞した。	参加校が減少しているため、参加校に対して、参加賞の配布を行った。この効果検証を行い、今後も参加校を増やす取組を行っていく。
(3)その他の公共施設の緑化	みどり公園課 各施設所管課	公設運動施設(全40施設)の樹木剪定・伐採	20本	22本	20本	公設運動施設(全40施設)の樹木の維持管理を目的とした業務において適切に業務を遂行することが出来た。	公設運動施設の樹木の維持管理を目的とした業務において、今後も適切に業務を推進する。
		北区でのひまわりの種配布	360団体	378団体	580団体	区の花「ひまわり」を通して区の魅力に磨きをかけ、区内外に向けた魅力発信のツールとして活用するため以下の取組を実施した。 ①ひまわりの種を学校、地域コミセン等の施設や町内自治会、遊休地を保全する団体等に配布した。 ②北区在住の小学生を対象にした「ひまわりの絵画コンクール」の開催し、1,134作品の応募を集めた。	②について、これまで入賞以外の作品の活用方法が課題であったが、今後はそういった作品を使用したモザイクアートを作成するなどし、区の魅力発信の強化及び緑化意識の向上を図っていきたい。
		グリーンカーテンの維持管理(環境総合センター)	100m ²	100m ²	100m ²	近隣の保育園児や保育士と一緒に正面玄関前の花壇にゴーヤ等を植栽し、当センター内の表面温度の上昇を抑えた。	前年度同様、地域住民と一緒に、公共施設のグリーンカーテン普及を推進していく。
		幸田まちづくりセンターフラワーポット設置数	15基	15基	15基	環境美化に努め、来館者に対して花による癒しを与えることができた。	提供によるものであるため、季節ごとの植え替えや多彩な品種を描えるといったことが難しい。今後の運営方法について関係者と協議するなどし、計画終了後も継続できる形としたい。

2 多様な主体との協働による民有地の緑の創出

項目	担当課	令和6年度実績			R5年度実績値	評価及び今後の取組	評価及び今後の取組
		項目	計画値	実績値			
(1)民有地の緑化	みどり政策課	緑地協定締結箇所	18箇所	17箇所	17箇所	長いところでは緑地協定が締結されてから46年を経過している。緑地協定締結箇所は平成14年を最後に増加していない。	協定締結後30年以上たった地区については地権者等が変わっている可能性があるため、あらかじめ調査が必要である。大型分譲地の開発許可申請があった場合に、引き続き協定締結の指導を行っていく。
(2)商業地の緑化	建築指導課 商業金融課 みどり政策課 花とみどり協働課	商店街活性化のための補助金(緑化活動含む)	0千円	0千円	0千円	商店街活性化のための補助金交付は実施したものの、商店街活性化に資する緑化推進活動についての申請はなかった。	商店街の魅力向上に資する取組に対する補助事業であるため、緑化推進につながる取組が必ずしも実施されるとは限らない。今後も申請があった際には支援を行っていく。
		地域拠点における駅やバス停周辺の緑化推進として、フラワーポット等の設置(アクションプログラム中心市街地)	計画値無	2基	2基	今年度は新たな設置は行わず、既存のフラワーポットの維持管理に注力した。既存の美しい景観をもちつ、持続可能な環境づくりを目指した。	アクションプログラムの実施地域が拡大することに伴い、駅やバス停などの公共スペースにおけるフラワーポットの設置を検討したい。
(3)工業地の緑化	企業立地推進課	特定工場の新・増設に関する届出および適切な運用の指導	計画値無	3件	5件	全ての案件について、工場立地法に基づき、緑地面積率、環境施設面積率等の基準を満たすとともに、届出から着工までの期間の制限を遵守していること等を確認したため、制度が適切に運用され、工場の新設等に伴う環境保全が図られている。(なお、件数については、特定工場を新・増設する企業の事業展開等に応じて決まるため、評価の対象外)	届出までの準備期間に余裕が無い事業者が散見されるため、制度の認知度向上が課題であり、ホームページなどの情報発信ツールの精査、製造業に係る経済団体等との連携による周知等を検討していく。
(4)建築・開発時における緑の保全・創出	みどり政策課	開発行為に伴う緑化面積	17,000㎡	28,089㎡	17,879㎡	開発に伴う事前緑化協議は、232件(うち緑化義務のない専用住宅は約8割)、建築確認に伴う事前緑化協議は154件だった。多くの業者は基準に沿って緑化を実施しているものの、視距の確保や経済性を理由に協議に応じないケースも見られ、高木や中木の植栽よりも芝張りや選ばれる傾向がある。	緑化推進の方法や多様な緑化手法、維持管理が容易な植物について検討し、適切な案内を行う。
		建築確認に伴う緑化面積	13,000㎡	15,849㎡	24,298㎡		
		大規模小売店舗届出に伴う事前緑化協議	5件	7件	5件		
(5)緑を活用した景観まちづくりの推進	都市デザイン課	景観法に基づく届出制度の活用	計画値無	179件	221件	令和6年度においてもこれまで同様、田園景観・既存集落景観保全ゾーンを含めた市内全域において、景観計画に定める景観形成方針、景観形成基準に適合した計画となるよう指導を行った。	太陽光発電施設については、近年特に市街地調整区域で設置件数が増加しており、色や高さ等形態のほか、敷地の緑化や既存樹木等周辺との連続性についても積極的な景観誘導を行う。

3 中心市街地において本市の顔となる緑の創出

項目	担当課	令和6年度実績			R5年度実績値	評価及び今後の取組	評価及び今後の取組
		項目	計画値	実績値			
(1)官民連携による緑化の推進	花とみどり協働課 都市デザイン課 市街地整備課	アーケード内の緑化	検討中	未定	未定	緑化フェアのレガシーイベントとして、くまもと花博2024を開催。アーケード内では、熊本城の伐採木を使用したベンチの設置、花のトンネル等を行った。また、くまもと花博2023の際に設置したフラワーベンチの樹木の植え替えを行った。	引き続き、緑化フェアのレガシーイベントとして「くまもと花博」を実施し、「花とみどりを日常に」という新習慣の創出をコンセプトに、市民や事業者の参画・協働によって花博を作り上げていく。これにより、イベント期間中だけでなく、日常的に花と緑のある暮らしの実現を目指す。
		まちなか再生プロジェクト(中心市街地の老朽建築物の建替えを促進し、まちなかの防災機能等を向上させる取組)	10件	2件	5件	新型コロナウイルスの影響もあり、相談件数は鈍化傾向であったが、本年度、建替え相談件数は増加している。令和6年度は、金融機関5行庫が共通のまちなか再生プロジェクト専用を創設し、本市では専用融資に対する利子補給を新たな財政支援メニューに加え、いずれも令和7年4月から実施する。また、令和6年指定の1件は、公開空地を確保し緑化を行う計画となっている。	更なる建替え促進や公開空地の整備に向けて、金融機関と連携して、令和7年4月から実施する専用融資と利子補給の積極的な広報・周知と活用促進を図る。また、民間事業者の動向などを把握し、効果的な建替え促進メニューを引き続き検討する。
(2)中心市街地での各種緑化事業の推進	みどり公園課 花とみどり協働課	壁面・屋上緑化助成活用促進	-	制度廃止	制度廃止	制度廃止。	同様の制度をくまもと緑景観機構が運用しているため、当該制度の利用案内を行った。
(3)緑化地域の指定に関する調査等	みどり政策課	緑化地域(都市環境の形成に必要な緑地が不足し、建築物の敷地に緑化を推進する必要がある地域)の候補地の選定及びその地区の指定に必要な事項についての調査検討	検討中	検討中	検討中	令和6年度第2回環境審議会に対し、緑地の保全制度見直しに関する諮問を行い、現在自然環境部において審議中。	緑地の保全制度の見直しの方向性について環境審議会より答申をいただく予定であり、制度の導入が妥当と判断された場合は指定に向け調整を図る。

基本方針3 緑を活かす(様々な機能を持つ緑の活用)

1 森林等の緑の機能の活用

項目	担当課	令和6年度実績			R5年度実績値	評価及び今後の取組	評価及び今後の取組
		項目	計画値	実績値			
(1)森林・竹林の維持管理と有効活用	健康づくり推進課 みどり政策課 みどり公園課 花とみどり協働課	九州自然歩道管理(金峰山周辺において地元団体に清掃やパトロールを委託)	20回	20回	20回	金峰山内にある自然歩道の2箇所を地域に委託管理してもらっており、こまめな対応を行っている。	熊本県管理の九州自然歩道であるが、サインの老朽化などに対応できていない箇所がある。
		金峰森の駅みちくさ館管理	9,044千円	9,001千円	8,483千円	みちくさ館にて、森林インストラクターと連携した木育を実施したほか、イベントで森林環境教育も実施した。	適切な管理はもとより、今後は、みちくさ館の利用者の増加及び利便性向上のための拠点整備を検討していく。
		市有林整備	16,461千円	15,150千円	8,677千円	老朽化した遊歩道の整備を適切に実施した。また、森林総合研究所・九州支所と連携し、市有林の間伐を実施した。	市民が親しむ森林空間を引き続き整備していくとともに、森林の有する公益的機能の高度発揮のための間伐等を実施していく。
		竹林の有効活用(タケノコ掘りイベントの開催)	1回	1回	2回	市の公式LINEによる広報を実施したところ、親子10組の応募枠はすぐに埋まるほどの反響があった。立田山で実施したタケノコ掘り体験では、親子で力を合わせて掘り起こす様子が見られ、アンケートでも「良い体験だった」との回答が寄せられるなど、満足度の高い結果となっている。	自然相手であるため、実施時期の見極めが難しい。アクションプログラム内の実施ですべて3年目が終了。あと2か年で、継続的な活動とできるか工夫が必要。
(2)市民農園等の有効活用	農業政策課	市民農園や観光農園等の利用促進のための情報発信	実施	実施	実施	熊本市ファミリー農園として指定している市民農園(12農園・合計約700区画)について、市のホームページや市政だよりなどを通じて広報を行い、利用促進につなげることができた。	熊本市ファミリー農園の継続的な指定及び利用に向けて、各種媒体を活用した情報発信に取り組んでいく。
(3)緑の適切な維持管理と活用	花とみどり協働課 各施設所管課	道路ふれあい美化ボランティア(道路の草刈りや清掃などを行ってもらう地元団体や企業などの団体も含む)報償金交付制度活用	前年以上(160団体)	165団体	160団体	道路ふれあい美化ボランティアが全体で165団体ある中で、その内の96団体が報償金交付制度を活用した。市HP等での周知効果もあり、令和5年度に引き続き本制度を利用する団体が増加している。	類似ボランティアが多くあるので、市民・職員共に分かりやすくなるためのパンフレットの作成を行う。
		グリーンインフラの整備	46,200千円	36,148千円	0千円	白川右岸(慶徳)緑地において、令和6年8月に設計業務委託を完了。令和7年3月整備工事に着手した。	白川右岸(慶徳)緑地整備工事については南側から順次整備予定。その他、中心市街地において整備を検討していく。
		北区役所庁舎周辺樹木草地の維持管理	75千円	214千円	0千円	背の高いカイズカイブキの剪定等一部作業を業者へ委託しつつも、北区役所庁舎に勤務する職員が主体となって樹木の剪定や除草作業等を通じた樹木の景観維持に努めた。	昨年度同様、今後も樹木の景観の維持及び除草作業等を通じた害虫駆除等に取り組んでいる。
		発生木材による作業台、ベンチ等製作	実施	実施	実施	熊本工業高校と連携して、発生木材でベンチを作成する事業を開始。令和6年度は木材の乾燥を行った。	令和7年度中に熊本工業高校でベンチを作成予定。

2 都市公園の魅力の向上による身近な緑の活用

項目	担当課	令和6年度実績			R5年度実績値	評価及び今後の取組	評価及び今後の取組
		項目	計画値	実績値			
(1)公園の特性に応じた活用の推進	熊本城総合事務所 スポーツ振興課 動植物園 文化財課 みどり公園課 花とみどり協働課 みどり政策課	熊本城公園の樹木定期点検・古樹治療(樹木区による)	2,000千円	2,695千円	3,200千円	全古樹に対し液肥の葉面散布を行い、古樹の樹勢回復を図った。また、掘削可能な箇所において土壌調査を行った。	掘削可能な箇所は、土壌調査の結果に基づき土壌改良を行うが、それ以外の箇所は土壌改良が行えない。
		城内樹木等維持管理業務(樹木撤去(遺構影響木))	30本	49本	0本	みどり保存管理計画に則り遺構影響木の撤去を行った。	今後も計画に則り撤去を進める。
		動植物園マスタープランに掲げる施設整備	104,990千円	100,822千円	66,737千円	サバンナエリア整備及びいきもの学習センター展示改修の実施設計を行った。	毎年度進捗管理を実施し、円滑な事業の推進に取り組む。
		水前寺江津湖公園の指定管理者が開催する自主事業イベント数の増加	13回	14回	14回	令和5年度と同等のイベントが実施された。	イベント数の増加や新しいイベントが開催されるよう、検討を行う。
		歴史公園(北岡自然公園他5公園)の公園維持管理(清掃・除草・樹木剪定等)	23,904千円	21,168千円	21,533千円	計画どおり公園の維持管理を実施した。	引き続き公園の清掃等、適正管理を進めていく必要がある。
(2)既存公園の有効活用	健康づくり推進課 みどり公園課 みどり政策課	公園施設の更新	202公園	274公園	246公園	長寿命化計画に基づき事業に取り組んだ。	施設の長寿命化によるトータルコストの縮減と平準化の継続に取り組む。
		江津湖ヘルシーマイレージのミッション達成者	計画値無	1,574人	1,512人	令和3年度から「江津湖ヘルシーマイレージ」を継続しており、水前寺江津湖公園で健康促進を図る取組を掲載しているが、利用者数に伸び悩んでいる。	今後は広報に力を入れ、利用者の向上を図る。
(3)官民連携による公園の魅力の向上	みどり政策課 みどり公園課 花とみどり協働課	公募設置管理制度(Park-PFI)の導入に向けた検討(サウンディング等)	1公園	1公園	0公園	江津湖公園にて、キッチンカー実証実験を(11月)と(2,3月)に行った。これを踏まえ、採算性等を把握した上でPark-PFIの実現に向けて検討を進めたい。一方で、Park-PFIについて業者からの問合せはあるものの、予算の都合上、断念されるケースが多い。	令和7年度は、各区の公園で、キッチンカー実証実験を行う。
		指定管理者制度を活用した公園	前年以上(1公園以上)	1公園	1公園	引き続き、指定管理者制度にて水前寺江津湖公園の管理を行った。	今後も水前寺江津湖公園の指定管理を行う予定。
		公園地域パートナー事業(熊本市と自治会等の地元団体が委託業務契約を交わし、公園の草刈り剪定などを行う事業)の公園	26公園	58公園	50公園	新規契約団体数が増えたことにより、公園数が増加となっている。地域コミュニティの構築だけでなく、市の維持管理費の削減へと繋がっている。	市HP等での広報を積極的に行っていく。
		他公園への協定導入※自動販売機	5公園	5公園	6公園	自動販売機の売上が減少したことにより、除草・清掃作業の経費との採算が合わなくなり、協定を結んでいた事業者側から辞退の申し出があった。	他都市の実績等を踏まえ、新しいスキームでの自動販売機の設置を検討したい。
(4)熊本地震を踏まえた災害に役立つ公園づくり	危機管理課 みどり公園課 消防局警防課 健康福祉政策課	公園内の防災倉庫の点検・管理	7公園	7公園	7公園	各公共施設が所管する防災倉庫計10箇所の点検・管理を行った。	引き続き、防災倉庫及び耐震性貯水槽の適正な維持管理を進めていく必要がある。
		公園内の防災倉庫の点検・管理※土木センター以外所管	3公園	3公園	3公園		
		耐震性貯水槽の管理	1箇所	5箇所	6箇所	例年どおり、各耐震性貯水槽の点検を行った。	老朽化した部材等があるため、修理が必要。
(5)公園の新たな取組の検討	みどり公園課 みどり政策課	行為許可・占用許可(仮設工作物のみカウント)件数	計画値無	633件	633件	随時インターネット・郵送・土木センター持込による申請を受付。令和6年度実績 行為許可624件、占用許可(仮設工作物)9件	引き続き申請を受け付け、適切な公園利用の推進を図る。

3 特色を生かした緑地の活用

項目	担当課	令和6年度実績			R5年度実績値	評価及び今後の取組	評価及び今後の取組
		項目	計画値	実績値			
(1)自然環境を保全・活用した都市緑地の整備	みどり公園課	小山林緑地遊歩道整備	計画値無	374m	0m	2025年のくまもと花博会場として遊歩道修繕、看板設置等を行った。	令和6年度で完了。
		白川左岸緑地(緑の区間)の有効活用に向けた取組	8回	7回	7回	水辺空間の賑わい創出のため、夜市や清掃活動を定期的に実施。令和6年度は民間事業者とのコラボ事業やBBQイベントも実施した。	今後も夜市や清掃活動を実施するとともに、民間事業者と連携したイベント等を企画し、賑わいや市民の憩いの場として良好な水辺空間の維持につなげる。

基本方針4 緑を繋げる(緑を支える人づくり・組織づくり)

1 緑に親しみ学ぶことによる市民の緑化意識の高揚

項目	担当課	令和6年度実績			R5年度実績値	評価及び今後の取組	評価及び今後の取組
		項目	計画値	実績値			
(1)緑化に関する行事の開催・情報発信の充実	花とみどり協働課 動植物園 みどり政策課 みどり公園課 国際課	くまもとオープンガーデン(市民や企業の皆様の庭を公開し、来場者に巡って楽しんでもらう取組)	24箇所	43箇所	46箇所	令和6年度2カ月余りの期間オープンガーデンを開催し、43箇所のオーナーが参加した。オーナーと訪問者がお庭を通じたコミュニケーションを楽しんでいただき、花緑への関心が向上した。	今後は、秋の期間も実施予定。
		くまもと花博2024の開催	25万人	25万人	21万人	「全国都市緑化くまもとフェア」を機に、高まった緑への関心や盛り上がりを利用して、「くまもと花博2024」を令和4年(2022年)の秋から開催している。「花や緑を日常に」を最終目標とし、令和6年度は雁回山を活用し実施した。広報や週末のイベントに力を入れ、目標来場者数を達成し、皆様に熊本の自然との触れ合いを通じて花や緑を体感いただき学びにつなげることができた。	今後も、「花や緑を日常に」を最終目標として、様々な取組を考えていくことが必要となる。令和7年度くまもと花博において、まち山エリアは初めて託麻三山が会場となるため、地元との連携や広報などの取組が重要になってくる。街なかエリア・水辺エリアを含む3会場のイベントを通じて、市民の生活に花や緑のある暮らしが日常となるようなイベントの企画・運営が課題。
		熊本市動植物園にある緑の相談所における、相談件数	計画値無	1,351件	1,477件	相談員が講師を務める出前講座への問合せが年々増加傾向にある。	花や緑の相談及び指導を通じ、家庭の緑化の支援及び園芸振興に寄与していく。
		緑視率調査への市民参加	計画値無	0件	27件	令和5年度は撮影方法や撮影場所の条件が統一されていなかったことにより調査結果の活用が困難であった。そのため、令和6年度は調査を実施しなかった。	今後は、撮影マニュアルの作成等を行い、調査結果の精度向上と有効活用を目指したい。
		維持管理に係るフランスでの技術指導	計画値無	0千円	2,517千円	令和5年度で完了。	令和5年度で完了。
		サンアントニオ市日本庭園東屋改修	15,787千円	20,540千円	0千円	サンアントニオ市植物園において、老朽化した竹垣改修を行った。	令和6年度で完了。
(2)市民や子どもたちの緑化意識の高揚・情操教育の充実	花とみどり協働課 環境総合センター 環境政策課 動植物園 みどり公園課 教育委員会指導課	緑のマイスター(養成講座で育成した地域の緑化リーダー)による少年団の指導	計画値無	1回	0回	くまもと花博2024・まち山エリア(雁回山第一展望所)でのアジサイ植樹体験を実施。親子での植樹体験は好評であった。	今後、緑の少年団への関与をどの様に進めて行くかが課題である。
		学校環境緑化コンクールの実施校数	40校	24校	25校	今年度は小学校10校、中学校14校の参加があり、16校が表彰を受けた。全日本学校緑化コンクールに推薦した、小学校1校中学校1校が入賞した。	参加校が減少しているため、参加校に対して、参加賞の配布を行った。この効果検証を行い、今後も参加校を増やす取組を行っていく。
		自然観察会の開催の推進 ※環境総合センター	4回	4回	3回	野鳥、水生生物の親子観察会を開催し、生物多様性について考える市民の育成に寄与した。	前年度同様、より多くの市民が参加する自然観察会を開催していく。
		記念樹の配布	500本	10,676本	473件	今年度策定した森の都再生プランに基づき、今後3年で20,000本緑を増やすという目標の中、10,000本以上緑を増やすことに成功した。	今後も継続的に記念樹を配布していく。
		自治会などの地元団体や保育園等への花苗配布	1,600団体	1,477団体	1,399団体	配布時期や花の種類等について市民アンケートをとり、できるだけ地域の希望に寄り添えるよう事業内容の充実を図った。	できる限り地域の希望株数を配布できるよう、業務委託の内容の見直しを検討する。また、一年草だけでなく、宿根草花壇の普及啓発に向けての取組を行っていく。
		地域ボランティアやPTA等と連携した学校緑化活動を行う学校数	140校	98校	99校	学校とPTA等との連携、学校支援ボランティア等の活動により、実績値が維持されている状態である。	PTA活動が縮小傾向にあり、実態に応じた新しい連携の形を模索していく必要がある。

2 市民・事業者・行政の協働による緑化活動の展開の促進

項目	担当課	令和6年度実績			R5年度実績値	評価及び今後の取組	評価及び今後の取組
		項目	計画値	実績値			
(1)市民団体の活動促進	花とみどり協働課 河川課 水保全課 土木総務課 みどり政策課 みどり公園課 環境政策課	公園愛護会のある公園	679公園	698公園	697公園	高齢化による後継者不足はあるものの、公園数としては1増となっている。また、市HPや愛護会だよりでの広報活動により、愛護会結成に関する問合せは増えつつある。	新規開発公園などについて、愛護会結成の呼びかけを強化していく。
		街路樹愛護会活動促進	10団体	11団体	11団体	各団体、地域住民と連携して活動を行った。	各団体、会員の高齢化が顕著となり、世代交代を図ってはいけないうかが難航している。参加者もなかなか集まらないとの事。令和7年度、各団体管理現地調査及び今後の在り方について、説明を行う。
		樹木ふれあい美化ボランティア活動促進	1団体	0団体	0団体	参加団体がいない状況が続いている。	街路樹愛護会との統合を検討していく。
		道路ふれあい美化ボランティア報償金交付制度活用	前年度以上	95団体	90団体	市HP等での周知効果もあり、R6年度に引き続き本制度を利用する団体が増加している。	類似ボランティアが多くあるため、市民・職員共に分かりやすくなるためのパンフレットの作成を行う。
		道路・河川・公園ふれあい美化ボランティアへの支援(参加団体の集計・表彰、要綱所管)	前年度以上	(団体数) 道路165 河川7 公園7	(団体数) 道路160 河川7 公園8	(道路):表彰については、長年参画いただいている団体から順に実施。令和3年度に報償金制度を開始して以来、団体数は増え続けている。 (河川):参加団体数としては横ばいながらも、参加人数はコロナ流行前に戻りつつある。 (公園):人手不足等により継続困難との理由で1減となっている。	(道路)(公園):制度周知のための広報に力を入れる。類似ボランティアが多くあるため、市民・職員共に分かりやすくなるためのパンフレットの作成を行う。 (河川):参加団体が伸び悩んでおり、新規参画におけた広報方法について工夫する。
		市民団体相互の情報共有のためのプラットフォーム設置運用(登録団体数)	維持	17団体	17団体	各団体のイベント情報や熊本市公式ホームページでの活動報告の掲載に加え、熊本市動植物園で開催した「いきものフェアくまもと2024」においても、登録団体のポスター掲示を行い各団体の情報発信に努めた。	登録団体の活動状況の発信、登録団体との協働による自然観察会の開催等により連携促進を図る。 登録団体相互の連携による生物多様性の認知度向上に向けた取組の効果をより高めるため、登録数の増加に努める必要がある。
(2)緑化活動を通じた健康づくり	健康づくり推進課 花とみどり協働課 各施設管理課	北区の魅力を活かした交流促進事業	計画値無	制度廃止	制度廃止	事業の見直しに伴い、令和4年度で事業を終了。	令和4年度で終了。
(3)緑化技術の普及	動植物園 花とみどり協働課	緑化に関する講習会として花と緑の講習会(植物園)	22回	23回	12回	アレンジメントなどの新規メニューを追加し、いずれも定員を超える応募があり好評であった。	固有種や希少種に関する専門的なプログラムや、市民のニーズにも合わせたメニューの追加も検討する。
		花の育て方講習会実施	1回	9回	12回	くまもと花博にて、地域の花づくりに活かしてもらうために区ごとに「花の育て方講習会」を実施した。また、アレンジメント等の講座を通して日常の暮らしにも活かしてもらうために「花のある暮らしprogram」を4日間にわたり実施した。	地域の花づくりに活かしてもらえるような内容になるよう、イベント内容の見直しを行っていく。
		緑のマイスター(地域の緑化リーダー)の養成	100人	92人	69人	第4期「緑のマイスター養成講座」にて24修了者の内、23名がマイスター認定登録者となり本年度登録者数は92名となった。市と連携した緑花活動や、独自に活動されるマイスターが増えた。一部、マイスター用の助成制度も試行運用中。	より多くのマイスターが自主的に地域リーダーとして活動し、規模も拡大していけるような仕掛けが必要。そのためには、助成制度について、本格始動に向けた検討が必要。
(4)企業等の緑化活動推進	花とみどり協働課 河川課	企業から協賛金を募り、熊本市が管理する植樹帯等を整備運営してもらうスポンサー花壇の拡充	16箇所	16箇所	16箇所	拡充実績なし。	現在の設置箇所以外にも花壇設置を検討。他の事業とも関連付け、より多くの企業の協賛が得られるよう取り組んでいく。
		パートナー花壇募集・公開	計画値無	66箇所	62箇所	HPで広報を行ったが、今年度は4件のみの登録であった。登録開始から5年の節目であることから、登録団体・登録者へ継続確認及びオープンガーデン登録への検討依頼を行った。90%以上が登録継続を希望している。	人員・時間に余裕が無く、登録花壇への現地訪問出来ない。また、訪問要請がある現地へも赴くことが出来なかったため、今後、訪問要請があった現地在を優先的に訪問する。登録している団体へプレートや花の種等の配布を検討。(旧Twitter)やInstagramなどでの広報に力を入れていきたい。

3 緑化推進のための組織運営の強化

項目	担当課	令和6年度実績			R5年度実績値	評価及び今後の取組	評価及び今後の取組
		項目	計画値	実績値			
(1)基金等の活用	みどり政策課	熊本市ふるさとの森基金(熊本市の良好な自然環境の確保に資することを目的に設立した基金)への寄付	3,000千円	20,465千円	12,003千円	ふるさと納税ポータルサイトでの寄附が、寄附全体の9割を占める。	積極的に広報宣伝を行う。
		緑のじゅうたんサポーターの募金	8,000千円	5,763千円	3,664千円	市政だより、森の都くまもと公式Instagramにて広報を行い、募金の推進を行った。	積極的に広報宣伝を行い、サポーターの拡大を推進する。
(2)関係団体との連携	みどり政策課 花とみどり協働課	緑化活動を通して森づくりや人づくりを行うことを目的とした緑の募金	18,000千円	12,000千円	17,495千円	目標額18,000,000円に対して約12,000,000円の実績。(令和7年4月現在、6月末までの募金で集計を行う。)	引き続き、広報活動を行いながら、街頭募金等も行い目標達成を目指す。併せて、募金を活用した、緑化の推進を行っていく。
		くまもと緑・景観協働機構(民間緑化や景観形成活動の支援などを主たる目的として設立された組織)の制度の活用	30件	112件	84件	年々、活動が周知され申請団体が増加している。今後も申請団体の増加が見込まれる。	花いっぱい運動については熊本市内からの希望者が増加し、機構からこれ以上増やせない旨の連絡もきている。機構の他の助成制度の活用、希望の多い花いっぱい運動の予算とのバランスなど、調整を詰めていく。
		子どもたちと地域の未来を考える花と緑のまちづくり全国首長会への参加	1回	5回	3回	令和5年度より市長が会長を担っており、総会、研修会等にも出席した。	引き続き、総会、研修会等にも出席する。